

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価						
よく考え、工夫する子ども 人やものにやさしい子ども 進んで取り組み、やりぬく子ども	笑顔あふれる 中塩田の子 ～一人になれる 一つになれる～			学校生活を楽しいと感じ、授業でわかったと実感している様子が児童アンケートから読み取ることができる。また、児童会活動での挨拶への取り組みなど昨年度課題となっていた挨拶の向上に向けて児童が主体となり取り組む活動も定着しつつある。一方、一人ひとりが表現したり、考えて物事に取り組んだりする姿に課題を感じ、さらなる成長を願う教師の姿がある。後期は、UD化やICTを用いた授業改善と、個々の児童の様子をとりえ良さを広げて、より児童が安心して自己表現し学べる環境を整えていきたい。						
				今年度の重点目標		成果と課題		A	B	C
	①	よく聴いて、自分の思いを表現できる子(話す・書く)	自分の思いを伝えられるようになってきているが、個人差が大きく表現することが難しい児童も多い。また相手意識をもって表現する、聴くことがもう一歩。				○	自信をもって発表できるようにスモールステップで表現する学習形態を工夫し、個々の良い姿を認める声かけを大切にす。		
	②	自分から挨拶し、相手を大切にす子(温かい言葉・思いやり)	児童会の活動や教師からの声かけにより挨拶を頑張る姿も広がりはあるが、自分から進んで挨拶をする姿がさらに増えたとよい。				○	自ら挨拶することの気持ちの良さを感じられるような声かけ、日常の接し方にきめ細かく対応したい。		
③	友と協力し合い、作業や活動に根気よく取り組む子(黙々活動)	作業や活動に一生懸命取り組むことができる子が多い。さらに友達と協力して取り組む機会を増やせるとよい。				○	友達と一緒に協力して活動できる機会をつくり、達成感を共有できる場を設けていく。			

領域対象		評価の観点		成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策	
重点目標	①	A	わかりやすい板書	「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置付け、一時間の授業の流れが分かる板書を心がけているか。	毎時間統一した板書を心がけることで、児童は学習の見通しがもて、児童の8割が分かりやすいと感じている。まとめの時間確保と板書内容の精選が課題。				○	振り返りを相互確認する時間を確保したい。板書計画をたて板書を絞って、見やすくする工夫をする。	
		B	振り返りの時間の確保	1時間で学べた内容や学び方を振り返る時間を確保し、子どもの考えや定着状況を確認しているか。	学習進度の違いで、毎時間振り返りの時間をしっかりとることはむずかしい。振り返りの時間が互いの学びの場になるように授業に位置付けていけるとよい。				○	ねらいを明確にして、見通しを持って授業展開を志すようにし、1時間で学んだことの確認を最後にできるようにする。	
		C	家庭学習の充実	家庭学習の手びきをもとに、家庭と連携した家庭学習の充実に努めているか。	保護者の家庭学習への声かけや支援があると児童の家庭学習への取り組みも定着している様子が見られる。				○	自主学習の内容を共有する場を設け、互いの良さを学習につなげていきたい。家庭での協力を得られるように働きかける。	
	②	D	楽しくけじめある学校生活	「挨拶・返事・靴そろえ・場に応じた姿勢」を大切に、児童会と連携して安全、安心、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。	児童会が中心になって挨拶活動に取り組み、よさを広められていてよい。個人差もあるが、授業中の姿勢が崩れてしまう児童が見られる。				○	児童会活動の「挨拶びかいちゃん」などの活動を続け、意欲を高めていく。廊下を走る児童が多いので、改善していきたい。	
		E	異年齢の友だちとの活動	なかよしタイム、なかよし読書などの異年齢活動を通して、子ども同士が温かい言葉をかけ合い、相手を思いやる意識が高まったか。	感染予防対策をとりながら、なかよしタイムを2回実施でき、互いに交流をし、良さを感じ合う姿が見られた。				○	2学期はさらに活動の場や内容を広げたい。これからもできる範囲で交流時間を設け関わりが深まるようにしていく。	
		F	交流活動の充実	地域の方々や園児・福祉施設の方々の交流活動に児童が楽しんで関わり合えるよう取り組んだか	コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見合わせてきた。	/	/	/	/	/	コロナウイルス感染拡大予防対策をとりながら、活動を行えるようにしていく。
	③	G	よく考え行動する児童の育成	よく話を聴き、深く考え、自ら気づいて行動する気持ちを高めたか。	成長段階に応じて自ら動ける場面は増えてきているが、話し手の意図を聞き取る力・いくつかの方法を考える力の育成に課題。				○	2学期はさらに考える・行動する活動の幅を広げ、できている姿・気づいて行動できた場面を認めて、他の子どもにも広めていく。	
		H	体力向上の継続的な活動	マラソンや縄跳びを取り上げ、進んで継続的に体力向上に向けた活動ができるよう指導を工夫できたか。	マラソン月間では、目標をもち進んで走る子どもたちの姿が見られたが、継続した体力向上に向けた取り組みにはならなかった。				○	体力向上に向けて、日々の言葉かけを大切に、興味を持って継続して取り組める活動内容を検討していきたい。	
		I	仕事に対する意識の醸成	清掃活動や当番活動・係活動、花壇での花作り等を通して、役割を担うことの大切さや仕事に対する意識を醸成したか。	やるべき事がわかるとしっかり取り組むことができる子どもたちに育ってきている。				○	行動の振り返りをする場面を大切に、お互いのがんばっている姿を認めながら、さらに内容を広げていきたい。	
学校運営	地域連携との	J	学校支援ボランティアとの連携	地域ボランティアとの連携を通して、読書・学習・体験活動・交通安全に対する意識を高めたか。	チャレンジタイム・読み聞かせ等、子どもたちとあたたかい関わりをしていたが、子どもたちの励みになっている。				○	学習ボランティアの人員を確保できるようにし、より多くの支援の手が子どもたちに届くようにしていきたい。	
		K	授業のユニバーサルデザイン化	一人一人の子どもにもわかりやすい授業となるように、学習環境を整えることができたか。	生活環境の中でのユニバーサルデザイン化は進めることができていく。ICTを用いた授業や方法など実践を積み上げていく。				○	活用事例や実践から研修を深めたり、個々の実態をより丁寧に把握し、それに合った支援を考えていく。	
	生徒指導	L	職員研修の充実	子どもから学び、子どものための授業にするために、教職員が互いの実践に学び合いながら研修し、授業に生かすことができたか。	ICTの活用についての研修会を設けて、積極的に授業実践を積み上げることができた。互いの授業を見合うための研修体制が課題。				○	校内での実践を互いに見て学べる体制づくりについて検討していきたい。	
		M	いじめへの対処	いじめを防止し、いじめが起きた際、適切に対処することができているか。	スピーディーに児童から話を聞き、情報共有をしながら解決に向けての取り組みを行えた。日々の生活の中で、より丁寧に児童の様子を見ていく。				○	困ったときの解決方法・トラブルを防げるような人間関係の育成を日々の生活の中で培っていけるように指導していく。	

評価方法 ア・・・教師自身による評価 イ・・・学校長による評価 ウ・・・児童による評価(アンケート) エ・・・保護者による評価(アンケート) オ・・・学校関係者・学校評議員による評価(アンケート)